

## 尾張万歳とは

尾張万歳は、扇子を持って祝詞を唱える太夫(たゆう)と、鼓をたたいて合の手を入れる才蔵(さいぞう)とで演じるもので、基本は二人一組。二人の関係は、対等ではなく、太夫は芸に秀でた年上の者が務めます。才蔵は長年務めて芸を覚えてから太夫に出世しました。また太夫には、蝶太夫・長福太夫といった芸名も使われています。

演目によっては、太夫一人を中心に、才蔵が左右に二人・四人に増えたり、楽器も三味線や胡弓(こきゅう)を加えて華やかな舞台芸になることもあります。



### ◆歴史ある芸にふれる希少な機会をお見逃しなく!

江戸時代、尾張万歳衆は新年に家々を巡り万歳を演じました。座敷に上がって神棚や床の間に向かい、その家に合った万歳を言祝いだのです。

江戸時代後半には、基本となる厳粛な「五万歳」が成立します。そこに「福良持倉(ふくらもくら)」「入込(いりこみ)」がめでたさと笑いを加えました。さらに「御殿万歳」が新築祝いや結婚式などで演じられ、家に七福神を呼ぶ舞台芸として人々から親しまれました。

万歳人口が増えるにつれ、芸の修練を呼び、優秀な万歳師も生まれました。演技の内容にも創意、工夫がみられるようになり、天保十年ごろ、歌舞伎の流行とともに、三曲(さんきょく)万歳が演じられ始め、明治二十年ごろに完成。この万歳は、歌舞伎や浄瑠璃などの演目を取り入れ、楽器の弾き手と芝居の演じ手に分かれて舞台上でにぎやかに演じるもので芝居万歳とも呼ばれます。大正時代には万歳の劇団も結成されるなど、尾張万歳は全盛期を迎えました。

昭和初年からは万歳のラジオ放送が始まり、「万歳来ないと正月来た気がしない」とまで言われ、正月の風物詩として定着。しかしその後は、工業化の進展や社会の変化とともに万歳師は減り、社中もつぎつぎ消滅しました。

現在、尾張万歳は後継者不足に直面しながらも、保存会による上演、継承が続けられています。ぜひこの機会に尾張万歳をじっくりご堪能され、そのおもしろさをご喧伝いただけるよう期待します。

### とき・ところ

**2017年12月5日(火)**  
**中日パレス(中日ビル5F)**

- 地下街より中日ビルの地下B2エレベーターをご利用下さい。
- 名古屋高速東新町出口から南へ約10分。

**講演会&尾張万歳 ▶ 18時00分~19時30分**  
**情報交換会 ▶ 19時40分~21時00分**



### お申し込み

**FAX 052-242-9429**

- 講演会&尾張万歳 — 無料
- 情報交換会 — 6,000円

※お申し込みは先着順に受け付けます。定員になり次第締め切らせていただきます。

※講演会&尾張万歳にお申込みの方には参加票を、情報交換会にもお申込みの方にはあわせて振込用紙をお送りいたします。

**下記にご記入の上、送信してください。 ※締切日 11月21日(火)**

ご住所			
電話番号		FAX番号	
貴社名			
講演会&尾張万歳 参加者 氏名		情報交換会 参加者 氏名	